

【 新型コロナウイルス㉐ 】令和 4 年 6 月 7 日（火）保健福祉委員会

## 新形コロナワクチン接種の取組について

国内で新型コロナウイルス感染症が確認されてから 2 年以上が経過し、抗ウイルス薬や中和抗体薬などの開発も進んでおりますが、投与できる患者や供給量に制限があるなど、現時点では、確実で使いやすい治療法が確立しているとは言えない状況と聞いております。こうした中、道民の命や健康を守るためには、希望される方に対し、ワクチン接種を確実に進めることが重要と考えますので、以下、本道における取組について伺います。

### （一）道内の接種状況について

はじめに、5 歳から 11 歳の子どもに対する 1～2 回目の接種と、12 歳以上の方への 3 回目接種について、道内における年代別の接種率を伺います。

（答弁：感染症対策課市町村支援担当課長 山田昌弘）

- ・ 5 歳から 11 歳までの接種率は、6 月 5 日現在、1 回目が 18.7%、2 回目が 14.9% となっている。
- ・ 3 回目接種については、6 月 5 日現在、12 歳から 19 歳が 25.6%、20 代が 43.1%、30 代が 46.2%、40 代が 55.7%、50 代が 72.1%、60 歳から 64 歳が 80.6%、65 歳以上の高齢者が 89.0% となっている。

## (二) ノババックスワクチンについて

国内で 4 種類目の新型コロナウイルスワクチンとして、新たに承認されたノババックスワクチンについて、道では、札幌市厚別区のホテルに開設する『北海道ワクチン接種センター』において接種を行うこととし、先月 27 日から予約受付を開始したと承知していますが、道が接種を行う意義について伺います。

また、一昨日の 6 月 5 日に初日の接種を行ったと伺っておりますが、現在の予約状況と接種人数についても、合わせて伺います。

(答弁：予防接種担当課長 吉田亮輔)

- ・このワクチンは、1・2 回目接種において、アレルギー等の心配から、アストラゼネカ社ワクチンを接種した方に加え、ファイザーやモデルナ社のワクチンの接種後に、副反応が強く出た方などが、接種を希望することが想定されるため、国は、都道府県に 1 カ所以上、接種会場を設置するよう求めており、道は、道民のワクチン接種の選択肢を広げるとともに、接種会場の更なる確保に向け、道が設置する『北海道ワクチン接種センター』の運営を継続した上で、ノババックスワクチンの接種を進めることとした。

- ・今月 5 日から 26 日までの各日曜日に係る接種希望者の予約を受付しており、4 日間分の予約枠 450 名に対し、昨日までに 450 名が予約済みで、このうち、接種初日の 6 月 5 日は、83 名の方に接種した。

### (三) 若年層への接種について

先ほど、年代別の接種状況について伺いました。年代が低くなるほど接種率が低い状況になっています。若年層の方は、『感染しても重症化しない』、『感染するよりワクチン副反応の方が心配』といった理由で、接種をためらう方も多いと聞いています。

道として、こうした方々の意見や心配を真摯に受け止め、正しい情報の発信や呼びかけに努める必要があると考えますが、道の取組について伺います。

(答弁：ワクチン戦略担当課長 漆崎卓哉)

- ・若年層の接種の促進に資するよう、3 回目接種を行うことによる、交互接種を含めた有効性や発症予防、重症化予防といったメリットに加え、接種後の副反応等に係る情報について、道のホームページや SNS、広報チラシなど、様々な手法により、積極的な周知に取組んできた。

・こうした中、接種時期を迎えている若年層の3回目接種を加速化させていくためには、正しい知識や情報を十分にご理解いただいた上で、接種を希望する方が安心して接種していただくことが何より重要と考えていることから、若年層人口の多い札幌市との共同広報に連携して取り組むとともに、複数の大学から、ワクチン接種に係る学生を取り巻く実情等を聞き取るなどしながら、道内大学生や専門学校生などのニーズに即した情報にアクセスできるポータルサイトを開設するなど、学生にターゲットを絞った、分かりやすい情報の発信や周知にも積極的に取組んでいる。

#### (四) 4回目接種について

##### (1) 接種対象者について

国は、4回目接種の対象者を60歳以上の方と基礎疾患のある方などに限定しましたが、全国的に医療従事者や高齢者施設の従事者なども対象に入れる必要があるといった意見もあると聞いています。道にもこうした意見が寄せられているのか、道の見解と合わせて伺います。

(答弁：予防接種担当局長 千葉 修)

- ・国では、科学的知見や諸外国の動向などを踏まえ、4回目接種の対象者を重症化リスクの高い60歳以上の方と基礎疾患有する方などに限定した上でその接種を進めるとともに、今後、接種対象者の範囲について、引き続きその検討を行っていくこととしているものと承知。
- ・こうした中、全国市長会や関係団体などからは国に対し、医療従事者や高齢者施設の従事者等についても、その対象とするよう求める声があるものと承知しており、道内でも一部の関係団体等（北海道病院協会）から国への働きかけについて、道にも意見が寄せられている。
- ・このため、4回目接種の対象者の範囲にあたっては、医療や介護等の現場の意見や要望も踏まえた上で、国民の理解が得られる効果的な接種が進められるよう十分な検討を進めることなど、国に対し働きかけてきた。

## （2）道の集団接種会場の活用について

現在の科学的知見によると、4回目接種については、60歳以上の方や基礎疾患有の方の重症化予防に効果が認められているとのことです。

感染状況は減少傾向にあるものの、不安を抱えて生活している高齢者や基礎疾患のある方に対し、一日も早く4回目接種を進めることが重要です。

道においても、集団接種会場を活用して、4回目接種の促進を図る必要があると考えますが、道の見解を伺います。

(答弁：予防接種担当局長 千葉 修)

- ・国では、審議会における検討等の下、重症化予防の効果等とともに、ワクチンの効果が時間の経過とともに低下することも踏まえた上で、先般、重症化リスクの高い60歳以上の方や18歳以上の基礎疾患のある方などを対象に3回目接種から5カ月を経過した方から4回目接種を進めることとした。
- ・道は、接種を希望する高齢者の方など、対象となる方々が安心して円滑かつ速やかに接種を受けられるよう、接種対象者の範囲に関する情報発信や専門的な相談体制の整備、地域の円滑なワクチン供給など市町村の取組を積極的に支援してまいります。
- ・道が4回目の集団接種会場を接種・運営することは、道内の感染状況や市町村における接種の進捗状況等も勘案し

ながら検討する必要がある。

## (五) 今後の取組について

若年層における接種の促進や高齢者等への 4 回目接種の取組、さらに、新しいワクチンへの対応などワクチンの接種主体である市町村の負担はますます増えています。道として、引き続き市町村への支援が必要と考えますが、今後の取組について、感染症対策監のお考えを伺います。

(答弁：新型コロナウイルス感染症対策監 佐賀井祐一)

- ・市町村では、3回目までの接種、小児向けの接種、先月 25 日からは、4回目接種が始まったほか、使用するワクチンも全体で 4 種類となったことなどを鑑みると、道としては市町村をはじめとする関係機関の皆様には、業務上の輻輳や煩雑な面があるものと考えている。
- ・道では、これまでも、市町村の実情を把握しながら、ワクチンのきめ細かな配分や市町村間融通に加え、道民の皆様にワクチンの有効性や副反応といった必要な情報の提供、高齢者施設等への接種促進に向けた依頼や先行事例の紹介など、情報発信を行うことにより、若い世代の 3 回目接

種や高齢者等への 4 回目接種の呼びかけをはじめ、参考事例の紹介など、地域の課題に即した取組を進めるほか、医療関係団体と接種対象者等への情報提供など、接種促進に向けて連携を深めながら、市町村の取組がより一層、円滑に進むよう、積極的な支援に努めてまいる。